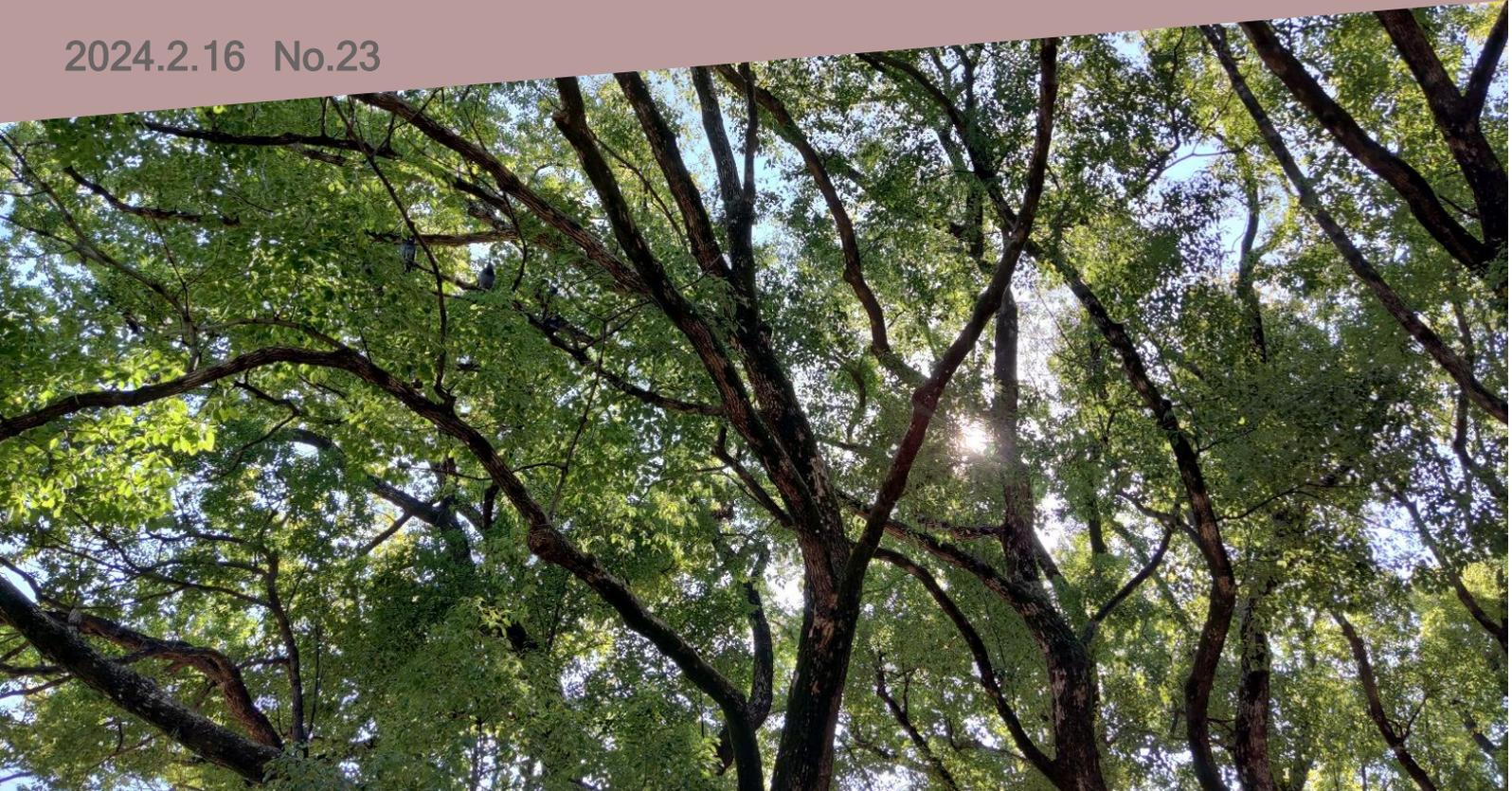


# 武庫川臨床教育学会 ニュースレター

2024.2.16 No.23



## 第18回研究大会、開会目前となりました **事前申し込みは2月24日まで**

第18回武庫川臨床教育学会研究大会が3月9日（土）に開催されます。事前申し込みは、2月24日（土）までです。魅力あふれる内容ですので、ぜひお仲間を誘ってご参加ください。

◆ **日時：2023年3月9日（土） 10:00～17:00（受付 9:30～）**

◆ **場所：武庫川女子大学教育研究所（対面とオンラインによるハイブリッド開催を予定）**  
会場での開催を基本とします。オンライン（zoom）による報告・参加も可能といたします。

◆ **日程：**

9:30	10:00	12:00	12:45	13:30	15:00	17:00
受付	自由研究発表	休憩	総会	シンポジウム	講演・対談	

終了後、懇親会を開催します。場所は「千穂」です。懇親会費は4,000円となります。

◆ **参加費：会員・非会員 1000円 / 武庫川女子大学の学生・院生は無料です。**

※ オンライン希望の方は、参加費をゆうちょ銀行の振替口座（口座番号：00940-3-224555、加入者名：武庫川臨床教育学会）に「研究大会参加費」と備考欄に記入の上、参加申込を〆切日までにご送金ください。

※ 会場参加の方は、大会当日、受付にてお支払いください。

武庫川臨床教育学会  
<http://mukogawarinkyo.com/>

〒663-8558  
兵庫県西宮市池開町 6-46  
武庫川女子大学教育研究所内

電話番号:075-922-7749（吉益自宅）  
メール: mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

## ◆ 自由研究発表（2月4日時点）

### 第1分科会：コミュニティーが支える子ども・若者の育ち

司会：吉岡真知子（東大阪大学）中村又一（武庫川臨床教育学会副会長）

- ① 岨中 庸子（竜王町教育委員会・学校教育課・スクールソーシャルワーカー）  
子どもの居場所作りと地域共生社会について（会場発表）
- ② 恩庄 澄（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科）  
自治的集団づくりにおける「相互ケア」実践の到達点と課題（会場発表）

### 第2分科会：子どもの生存・成長を支えるための教育とは

司会：渡邊由之（東大阪大学）・岩崎久志（流通科学大学）

- ① 加藤 恵美子（桃山学院教育大学）  
施設分離型小中一貫の中での詩の創作と読み合いを通して－他者をつなぎ、自己をみつめる－（会場発表）
- ② 田崎 由子（大阪綴方の会）  
学校避難としての「学童疎開」について考える（会場発表）
- ③ 吉益 敏文（豊岡短期大学）  
教師の「まじめさ」に関する考察－勝田守一の文献研究から－（会場発表）

### 第3分科会：人が生きることと不可分な保育・教育の在り方

司会：上田孝俊（武庫川臨床教育学会前会長）・木田 重果（西宮市教育委員会）

- ① 長谷 範子（名古屋女子大学）  
乳幼児の「保育を受ける権利」を守る保育実践の課題（会場発表）
- ② 中西 千奈都（東大阪大学）・二羽 礼（東大阪大学）  
ある共同研究室からのSOS－教員二人の学生支援の模索－（会場発表）
- ③ 荒木 実代（神戸医療福祉大学）  
児童の権利保障における学校教育導入論争の意義（会場発表）

## ◆ シンポジウム 「臨床教育学と私」

武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科に入学した動機、そこで学んだこと、今の問題意識など、3人の方に自由に語っていただき、会場の方との交流も踏まえ、臨床教育学の実像に迫っていきます。

報告者・・・長谷 範子さん（名古屋女子大学） 高橋 孝子さん（豊中市教育委員会）  
安井 勝さん（元立命館大学教職支援センター）

司会者・・・木田 重果さん（『臨床教育学論集』編集委員長）

## ◆ 講演・対談「保健室から創る希望」（仮題）

福井 雅英さん（元武庫川臨床教育学会会長） 山形 志保さん（北海道立高校養護教諭）

## ◆ 研究大会参加の方法について

- ① 事前参加申し込み制といたします。2024年2月24日（土）を〆切とします。〆切日までに下記のフォームあるいはメールからお申込みください。メールの場合、「会場参加」か「オンライン参加」かを明記してお送りください。

- Googleフォームによる申し込みはこちら：<https://forms.gle/yKHkdhWaKYtGHD3F9>  
→ スマートフォンやタブレットを用いて、右の二次元バーコードを読み取ってもアクセスできます。
- メールによる申し込みはこちら：[mukogawarinkyo@yahoo.co.jp](mailto:mukogawarinkyo@yahoo.co.jp)



- ② 参加申込をいただいた方には、オンラインでの参加方法、発表要旨集録をメールでお送りします。

※ 「会場参加」「会場発表」の方は、感染防止のため次の点にご留意ください。

- 1) マスク等による飛沫飛散防止は参加者の判断でお願いします。

- 2) 受付では氏名・所属・電話番号の記入をお願いします。
- 3) 建物入口や会場内にアルコール消毒の場を設けますので、手指の殺菌をお願いします。
- 4) 会場内での発言は、挙手をした上でマイクを通じてお願いします。
- 5) 借用している教室以外の場所やフロアへは立ち入らないでください。

※ ご質問がありましたら、メール：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp 宛てにお問い合わせください。電話は吉益事務局 長自宅（075-922-7749）まで。留守番電話の時は用件をお話してください。折り返し電話いたします。

## シリーズ：私と臨床教育学<sup>⑬</sup> （タイトルは編集担当が付けさせていただきました）

### ぬくもりの共有

安井 勝

#### 1. 進学までの経過と動機

##### (1) 当時の教育実践（概要）

40歳を超えた小学校教員の私は、民主的學校づくりと教育実践の課題を結んで奮闘していました(1990年代)。例えば、国語科授業研究、その後、不登校児童との出会い(3回)、「学級崩壊」クラスへの6年生担任(2回)、日本学校教育相談学会で事例研究報告(4回)、そして学校カウンセラー取得(1999年)。学校職場の諸課題、学校運営に微力を注ぐ。

##### (2) 当時の問題意識

- ・ その時期、教員の精神疾患の増加、「指導力不足教員」問題、教員免許更新制、教員評価システムの導入等々、次々と教師と教職をめぐる様相が変容してきました。
- ・ 教育に悩む教師を支援するために取り組んでいた白石大先生主宰「武庫川・教師を語る会」に(1年半)参加しました。
- ・ <真面目(誠実)、優しい先生たちが休職に追い込まれる事態に多く遭遇しました。指導に悩み、心を病む教師が職場で弱者として排除され、教育統制に利用され(よう)している。教師が「病む(悩む)」ことを是認されない職場はよそよそしくなる。>との問題意識を持ちました。

#### 2. 大学院での研究（2006年度入学 2009年3月卒業 指導教授：白石大先生）

(1) 研究課題は、i) 教育に悩む教師の教育への<のぞみ>を聴く。ii) i)をふまえ、教師支援と教育実践力量の形成を、臨床教育学的实践のもとで考察する。

(2) 本寄稿にあたり、研究考察の一部分を載せさせていただきます。下部の構造図は、新堀先生と白石先生からの御恵沢を得て作成しました。この図を<載せないと(お二人に)お叱りを受ける>との思いからです。

##### ☆『教育の共同性を拓く教育的対話に関する臨床教育学的研究』風間書房 2010年

～臨床教育学が構想する教育力量形成～

臨床教育学が展望する教育実践に関して、新堀通也(2004)は臨床の対象として、〈現場〉〈現実〉〈実践〉〈クライアント(問題)〉を設定した。(\*1) 筆者はそれに結合して(臨床の眼) (臨床の技) (臨床の心)を配置し、臨床教育実践の構造を以下のように考案した。(図1)

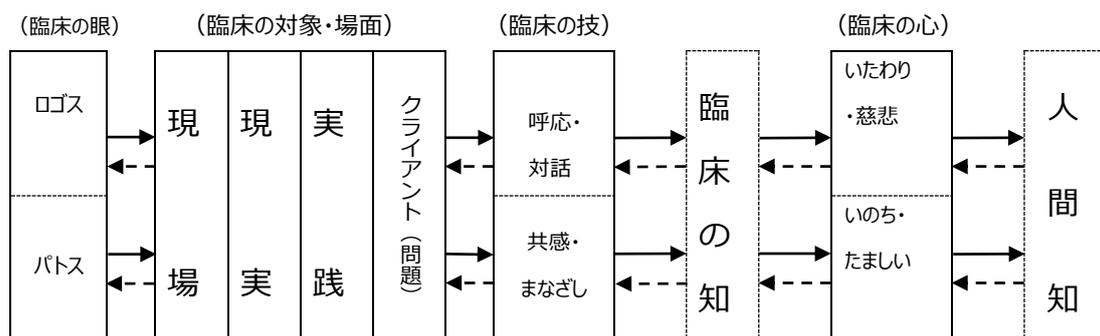


図1 臨床教育実践の構造図

構造図上の→(矢印)は臨床教育実践での人間知への認識過程であり、←(点線矢印)はその省察過程である。教育臨床実践の構造全体を上記の構造図に見ると、子ども理解は人間理解へと広がっていく。教師が会う子どもや親との関わりは、人間理解とその背景にある社会理解へ到達する実践的関門であり、それは教師の人的成長へと循環していく。臨床教育学が人間の根源となるいのち・たましいに迫り、いたわり・慈悲の心を語ることを、教育実践に悩む現場教師達は切望している。

教育において教育実践の着眼は子どものくらしや学びの現実置き、そこを源泉にしてこそ教育力量形成の内実が保障される。それは戦後の教育実践を拓いてきた多くの教師達の野太い実践に示されている。(\*2) 肝要なことは、それらの貴重な実践は勉強がわからない子や貧困や差別など厳しい現実に苦しみ、その環境ゆえに起こす「問題」生徒に身を置き、彼らの現実から教育実践の慧眼を拓いていったことである。その接点で、臨床教育学が対象とする〈現場〉〈現実〉〈クライアント(問題)〉に立脚する実践思想と通底していることを看過してはならない。

(\*1) 新堀通也「臨床教育学の課題－研究歴をふまえて－」『臨床教育学研究』第11号、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科、2004年、3～4頁

(\*2) 田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年

### 3. 臨床教育と私

《ぬくもりの共有》を臨床実践の基調に考えました。

☆「教育力量形成において子どもと教師の関係性省察を深化させる教師像の実践的研究－臨床教育ノート(記録)で捉えた子どものまなざしを契機として－」教育開発研究所 日本学校教育研究会編『学校教育研究 第29号』(2014)より

〈自己省察の教師像〉

i) 向かい合う関係を築く・・・(省略)

ii) まなざしの共有・・・\* T:教師 / S:児童 / ⑭, ⑰は、教師と児童の会話やかかわりの事実を教育ノートに記録した通し番号

⑭で、TはSの強い視線を最初に意識化し、続く⑰にはSのまなざしを感じとった。つまり、教師からは手指の隙間に見えるSの目は身体の一部なのだが、Sがそこから覗き見る教師は全体の姿である。Tがその視角の大小に気づいたときに、隙間から見るSの視線にまなざしを感じ取った。その〈部分から全体へ〉、〈視線からまなざしへ〉と認識を移行することで、まなざしが捉えるTの姿を教師の自己像として省察した。この像は子どもの視線を通して、教育実践を相対化させて自己検討しようとする実践的教師像と言える。同時に、それが実践的力量的形成されていく貴重な場面である。吉本(1984)は、子どもに「表情と身ぶりからだて向かい合い、言葉を子どもたちの内面に届けようとする(\*3)」教師の営みに「表情する」を「まなざしする」と読み込み、まなざしは最初にして最大の教育力だとしている。まなざしを共有する身体は、お互いのつながり感を深め、真に向かい合う教師に子どもは心を開き、子どものまなざしに教師の姿が「見出され」てくる。それを意識化できる時機に限られるので自覚されにくい、教育実践を山場へと向かわせる。

(\*3) 吉本均編著『人間を「人間にする」授業』明治図書、1984年、22頁

※シリーズ「私と臨床教育学」次回は田邊実香さん、田中佑弥さんの予定です。

## 編集後記

▲第18回研究大会が目前に迫ってきました。今回も武庫川臨床教育学会会員以外の方、院生の方たちからの自由研究発表があります。会員の方たちの積極的な発表とあわせて学び合いたいと思います。▲後半のシンポジウムは大学院を卒業され、それぞれの持ち場で活躍されている3名の方々から現在の問題意識を縦横に語っていただく予定です。それぞれの参加者の方が「臨床教育学と私」というテーマで新たな問いを深めていただけたらと思います。▲山形・福井講演に期待が高まっています。みなさんの参加をお待ちしています。〈文責：吉益〉